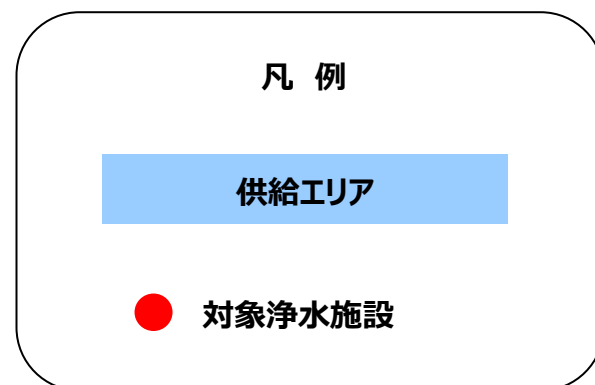
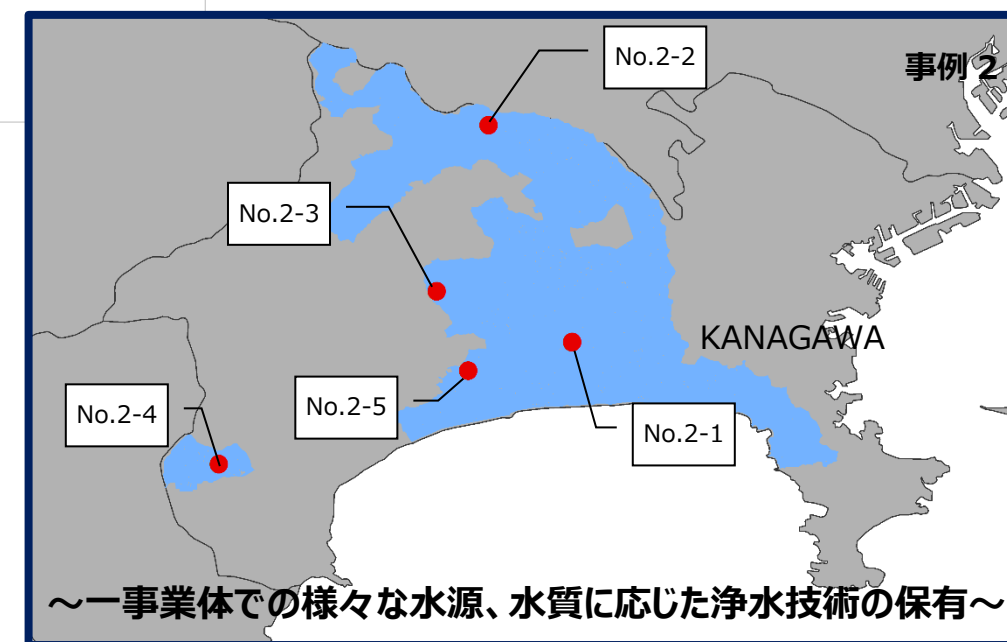
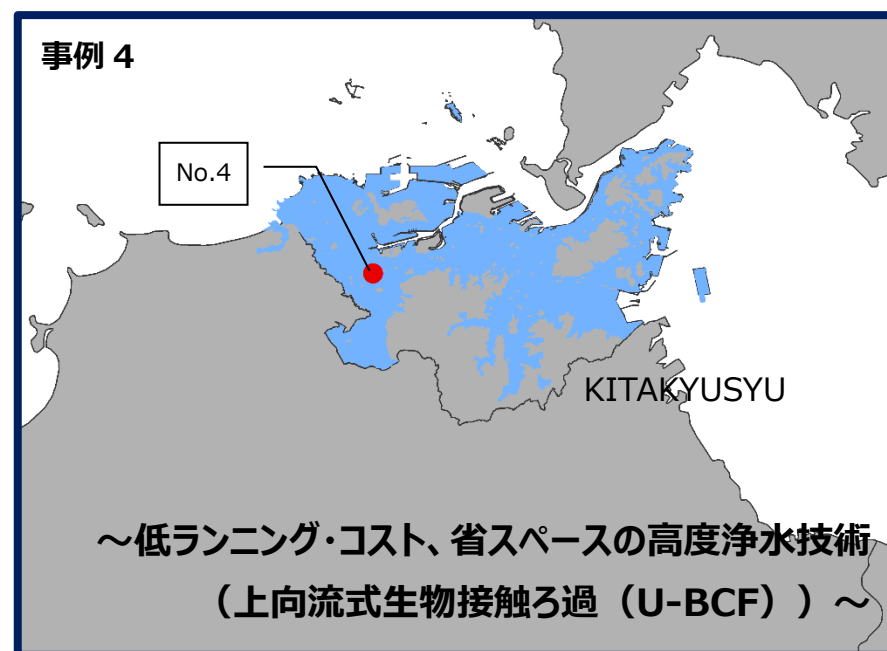


日本の浄水処理：4 水道事業体の調査事例

No.	事業体	調査事例
1	千葉県水道局	ちば野菊の里浄水場（施設統合）
2	神奈川県企業庁	様々な水源、水質に応じた浄水技術の保有
3	大阪広域水道企業団	村野浄水場（階層式浄水場）
4	北九州市上下水道局	上向流式生物接触ろ過技術（U-BCF）



No.	調査 事業体	調査事例	特徴
1	千葉県 水道局	ちば野菊の里浄水場	千葉県水道局は、約 300 万人に給水を行っており、約 125 万 m ³ /日（うち用水受水 26 万 m ³ /日）の浄水処理能力を保有している。浄水施設として、5 つ保有しており、そのうち、ちば野菊の里浄水場は、老朽化した古ヶ崎浄水場及び栗山浄水場を統合し更新することを目的とした耐震性を有する施設であり、古ヶ崎浄水場（昭和 15 年稼働）に代わって平成 19 年 10 月に完成した。現在、第 2 期として、栗山浄水場（昭和 33 年稼働）に代わる施設を建設中であり、平成 35 年度に稼働予定である。
2	神奈川県 企業庁	寒川浄水場（急速ろ過） 谷ヶ原浄水場（緩速ろ過、急速ろ過） 大山浄水場（膜ろ過） 水土野水源（紫外線処理） 吉沢水源（塩素処理のみ）	神奈川県企業庁は、約 280 万人に給水を行っており、約 169 万 m ³ /日（うち用水受水 67 万 m ³ /日）の浄水施設能力を保有している。その中で、表流水、伏流水、湧水、地下水といった様々な水源を保有しており、各水源水質に応じた処理方式が用いられている。 処理方式としては、急速ろ過方式、緩速ろ過方式、膜ろ過方式、紫外線処理があり、1 つの事業体で多様な浄水処理技術を保有し、適切な運転・維持管理が行われている。
3	大阪広域水道 企業団	村野浄水場	大阪広域水道企業団は、大阪市を除く 42 市町村（給水人口約 610 万人）に用水供給を行っており、約 230 万 m ³ /日の浄水能力を保有し、いずれも淀川から取水を行っている。 村野浄水場は、企業団が保有する 3 施設のうちの 1 つであり、給水量全体の約 8 割を担う浄水場である。浄水能力は国内最大級で、国内でも早くからオゾン・GAC を用いた高度浄水処理を導入した。また、限られた敷地を有効利用するため浄水施設を立体的に配置した、世界でも珍しい階層系の浄水施設がある。
4	北九州市	穴生浄水場 上向流式生物接触ろ過（U-BCF）	北九州市は、約 100 万人に給水を行っており、約 73 万 m ³ /日の浄水施設能力を保有している。5 つの浄水施設を保有しており、そのうち 2 箇所で U-BCF を導入している。 U-BCF とは、北九州市が独自に開発した高度浄水処理設備であり、薬品を使わずに、微生物が汚濁物質を取り込み分解する作用で処理する技術である。極めて安価なランニングコストと高い処理能力を有していることから、海外でも導入に至っている。